

目次

改訂にあたって	i
緒言	ii

1 一漢方医学の現況

はじめに	2	健康保険と漢方薬	11
伝統医学をめぐる世界の動き	2	漢方薬と経済効率(費用対効果)	14
日常診療の中の漢方	6	東洋医学関係の学会とその活動	15
統合医療からみた漢方医学の形	7	教育と専門医制度	18
医療の中の鍼灸	10	おわりに	20

コラム 漢方薬の値段 14

名医のカルテより 曲直瀬玄朔, 関白秀次の喘息を治す 21

コラム 江戸期以前の医学教育 22

2 一漢方医学の歴史

中国篇

中国医学の発生と『黄帝内経』の成立	24	南宋から金元代—百花繚乱の学説	26
『傷寒論』の成立	25	明代から清代—統合と簡易化	26
隋・唐の医学	25	中華民国成立より現在まで	27
宋代—医学の大衆化	26		

コラム 中国古代の解剖学 30

日本篇

中国医学の導入と模倣の時代	31	江戸時代中期—古方派の勃興	33
鎌倉時代	31	江戸時代後期—折衷派の時代	33
室町時代	31	明治維新から現代まで—衰退と復興	35
江戸時代初期—曲直瀬流の隆盛	32		

コラム 中医学の歴史と日本への受容 36

コラム 漢方医学の三大古典 38

コラム 『太平惠民和劑局方』—宋代に作られた世界最初の薬局方 40

コラム 漢代の疫病と『傷寒論』 43

コラム 漢方医学の流派 44

日本の名医たち 曲直瀬道三・曲直瀬玄朔・後藤艮山

吉益東洞・華岡青洲・浅田宗伯 46

3 一漢方医学の構造

はじめに	48	弁証論治と方証相對の	
中国伝統医学の構造	48	構造の違いと臨床のかたち	51
1 中医学	48		
2 漢方医学	50		

コラム 先端的だった方証相對システム 52

名医のカルテより 浅田宗伯、フランス公使の坐骨神経痛を治す 53

4 一漢方医学の基本概念

はじめに	54	陰陽五行説の医学への応用	55
陰陽五行説	54	1 陰陽説の医学への応用	55
1 陰陽説	54	2 五行説の医学への応用	56
2 五行説	55		

コラム 日本漢方と方証相對 58

コラム 学と術—永富独嘯庵の医術について 60

名医のカルテより 矢数格、全頭脱毛症を治す 61

5 一漢方生理学

はじめに	62	3 各臓腑間の関係	68
人体の構成要素とその働き	62	4 奇恒の腑	68
気・血・津液・火(陽気)・精	62	経絡	68
臓腑	64	1 十二正経	69
1 五臓	64	2 奇経八脈	70
2 六腑	65		
		コラム 気の生理作用	63
		コラム 二つの循環系	70
		名医のカルテより 古林見宜, 板倉重形の嘔吐を治す	71
		トピックス 4種の衛気の流れ	74

6 一漢方病因学

はじめに	76	2 内因	79
三因(外因・内因・不内外因)	76	3 不内外因	79
1 外因	76	病理産物	80
		コラム 内生五邪	78
		名医のカルテより 和田啓十郎, 胆嚢結石を治す	81

7 一漢方病機学

はじめに	82	2 六腑の病証とその病機	89
疾病を総括する二種の基本的病機	82	3 多臓器にわたる病証とその病機	90
1 邪正相争	82	病邪による病証とその病機	91
2 陰陽失調	83	1 外邪および内生五邪による病証とその病機	91
気・血・津液・火(陽気)・精の病証とその病機	84	2 病理産物による病証とその病機	94
臓腑の病証とその病機	85	六経分類による病証とその病機	94
1 五臓の病証とその病機	85	衛気営血分類からみた病証とその病機	95

コラム 八綱からみた病機 83

コラム 内邪と外邪 92

コラム 傷寒と温病 96

名医のカルテより 湯本求真, 老婦人の気管支炎を治す 97

8 一漢方診断学

はじめに	98	聞診	102
望診	98	問診	102
1 「神」の望診	98	切診	104
2 全体的な形態の望診	98	1 脈診	104
3 顔色の望診	98	2 腹診	108
4 身体各部位の望診	99	病態の診断(弁証—病因病機の分析)	111
5 分泌物・排泄物の望診	99	処方診断(方証相対)	117
6 舌診	100		

名医のカルテより 香月牛山, 伏暑の流行に新処方を開発 118

名医のカルテより 北山友松子, 松平頼純の痰嗽を治す 119

9 一漢方薬物学

総論

はじめに	120	3 配合禁忌	123
生薬の採集・生産と流通	120	4 禁忌	123
炮製	120	使用上の注意	123
生薬に備わった基本的性質	121	1 副作用	123
応用の一般的事項	122	2 その他	126
1 薬用量	122	調剤	127
2 配合原則	123		

コラム 日本と中国で基原の異なる生薬 132

各論

1 解表薬 134	6 利水滲湿薬 138	11 止血薬 141	16 開竅薬 143
2 清熱薬 135	7 温裏薬 139	12 化痰薬 141	17 補虚薬 143
3 瀉下薬 137	8 理気薬 140	13 止咳平喘薬 142	18 収澁薬 145
4 祛風湿薬 137	9 消食薬 140	14 安神薬 142	19 その他 145
5 芳香化湿薬 138	10 活血化瘀薬 140	15 平肝熄風薬 142	

コラム 西洋伝統本草の漢方医学への応用 146

10 漢方処方学

総論

はじめに 150	剤型 151
処方の組成原則 150	服用法 151

各論

1 解表剤 152	6 温裏剤 160	11 固澁剤 165	16 祛湿剤 169
2 瀉下剤 154	7 表裏双解剤 161	12 理気剤 165	17 祛痰剤 171
3 和解剤 155	8 補益剤 162	13 理血剤 166	18 消導化積剤 173
4 清熱剤 156	9 安神剤 164	14 治風剤 167	19 癰瘍剤 173
5 祛暑剤 159	10 開竅剤 164	15 治燥剤 169	20 その他の方剤 174

コラム 漢方薬の軟膏 175

11 漢方治療学

治療と治療原則

はじめに 176	2 治法細則 178
治法 176	治療原則 180
1 基本八法 176	

弁証論治

はじめに	181	2 六腑の病証の治療	185
八綱弁証にもとづく治療	181	3 複数の臓腑の病証の治療	186
気血津液弁証にもとづく治療	182	病邪弁証にもとづく治療	187
臓腑弁証にもとづく治療	183	六経弁証にもとづく治療	188
1 五臓の病証の治療	183	衛気営血弁証にもとづく治療	189

コラム 運氣論と漢方 190

方証相對

はじめに	191	方証相對における腹診	196
現行の方証相對	191	方証相對の薬物学	198
方証相對に用いられる諸概念	191	方証相對の処方学	198
1 陰陽・表裏・寒熱・虚実	192	口訣の運用	203
2 気・血・水	193	おわりに	203
3 六病位(六経)	193		

コラム 「虚」と「実」 194

コラム 日本漢方における「証」 196

コラム 方証相對システムの歴史 199

コラム 『腹証奇覽』と『腹証奇覽翼』から学ぶもの 200

コラム 一貫堂医学 204

名医のカルテより 半井慶友, 播磨屋助左衛門の傷寒を治す 205

コラム 100年前(1918~1920)の「スペインかぜ」に漢方医学はどう対応したか 206

主要生薬一覧	209
主要処方一覧	219
中国・日本医事年表	237
索引	245